opusdei.org

黙想の祈り:年間第5 主日(B年)

黙想のテーマ:「ヨブの抗議の祈り」「神にとって一人ひとりは大切な存在」「あるキリストの一日」

ヨブの抗議の祈り

神にとって一人ひとりは大切な存在

あるキリストの一日

「横たわればいつ起き上がれるのか と思い、夜の長さに倦み、いらだっ て夜明けを待つ」(ヨブ7・4)。ヨ ブは無数の不幸に見舞われました。 子どもと財産を失いました。重症と 膚病を患い、その痛みと不快も といます。彼は神に、そできました。 が出れていることができませる。 人生は無駄な努力、過できませる。 の、価値の無いものとしてくれることが彼の唯一の望みです。

 ヨブ記の終わりに、主ご自身が優し さをもってヨブを慰めます。神はる で信仰、祈りにおける堅忍をおける としての共っにおいるで信頼の が、誠実で信頼の祈りで が、で信頼の祈りです。 た。「そのように祈るなら、抗ちと た。「そのように祈る子どもと が、親に対して抗議すると そこれは親の注意を引き、 面倒をみて

ほしいという表現です。もしあなた のこころに、いくつか傷や苦しみを 抱えているなら、抗議したい、神に さえ抗議したいと思うでしょう。神 は聴いてくださいます。神は父なの です。神はわたしたちの祈りの抗議 を恐れたりはなさいません。絶対 に。神は理解してくださいます。で すから、祈りの中で自由になりま しょう。あなたの祈りをあらかじめ 考えた枠に閉じ込めないでくださ い。ダメです。祈りとは次のような ものです。自然発生的なもので、ま るで子どもが父親にお願いするとき のようなものです。すべてを口にし ます。それは、父親は自分を理解し てくれると知っているからです| [2]。 私たちはヨブと今日同じような 状況に置かれている中で信仰と神に 対する誠実さを生きる沢山の人々か ら学ぶことができます。彼らは神の 憐れみの力を人生における特に難し い状況において経験しました。

詩編は私たちが主を賛美するよう招 きます。主は民を助け「打ち砕かれ た心の人々を癒し、その傷を包んで くださる | (詩編147・3) からで す。神はこのような親しい愛情で私 たちを愛しています。私たち一人ひ とりの心に起こる最も小さなことは 神にとって大切なことです。神は遠 く離れたところで宇宙を全般的にの み統治している方ではありません。 そうではなく「主は星に数を定め、 それぞれに呼び名をお与えになる| (詩編147・4) 方です。そして神に とっては私たちは星の一つひとつよ りもはるかに大切な存在です。神は 私たちの名前を知っていて、私たち 一人ひとりの行いをいつも見守って います。聖ホセマリアは言います: 「神は被造物である人間の些細な事 柄にまで関心をお持ちである、とい う絶対確実な真理を知れば、喜びに

満たされるのではないだろうか」

「わたしたちの主は大いなる方、御力は強く、英知の御業は数知れな逆の一般を励まし、逆知の御業は数知れが逆の一方者を地に倒される」(詩編147・5-6)。神は自身の全能を、小さ留がある。歴史において誰の目にもいるものをです。を明ます。神にといて全てのような存在です。そして神は小がです。それます。神にを持って神は小なな存在です。そして神は小いながして特別な愛情を持っています。

第二朗読において聖パウロは、私たちがキリストのものになりたいのなら、また真に神の子となりたいなら、主のように常に憐れみを生きる者にならなければいけないことを思い出させます:「わたしは、だれに対しても自由な者ですが、すべての

人の奴隷になりました。できるだけ 多くの人を得るためです。弱りましてするためようにない人のようにないしている。ない人を得いたのものでのもりでの人ですって何人とかでのした。何くとの人たです」で生き己を与えるといるというないというないというないというないというないというないに、実な大情を育いた誠実な情を育いた。

「熱を与える神的な光」となること

[4]0

福音書において、先週と同様に私たちはカファルナウムにいるイエスと出会います。ガリラヤ湖畔に位置するこの場所は、公生活においてイエスが長い間滞在することを選んだ町であるように思われます。エルサレ

ムを除いて、聖書にはこの町以上に イエスの滞在が記録されている場所 はありません。ですから、聖マルレ が記述している場面は、キリストで 公生活におけるごく普通の一日で あった可能性が高いと言えます。 こでは、日常性という枠の中で、 〈普通のこと〉と〈普通を超えたこり、そこに主の仕事のあり り方が現れます。

「新約聖書の登場人物と頻繁に付れる 合ってください。聖書にあらましたはあられまでの数々を黙想してのを思想してのをしまる場合とは、 を観という。主が神といるとは、のであるは、 なは、であると共に神をおいないであるとは、のお話しになるあの変の話などはいであるのではないであるがであるがであるがいた。 、であるではないであるがないであるができます。 はいであるがいたがいたものがいる。 を観想することによって、私たちにといるとは、 を観想することによって、こことによったもしまるに他者のいるな苦しなそし

[1] 教皇フランシスコ、一般謁見演説、2022年5月18日。

[2] 同。

[3] 聖ホセマリア『鍛』619番。

[4] 聖ホセマリア『鍛』565番。

[5] 番。	聖ホ·	セマ	リア	『神の	朋友』	216

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-nenkann-5shujitu-b/(2025/12/13)